

1月31日 神戸市産業振興センターにて近畿建築祭が行われました。午後からセッションの一つに近畿あーきてくとが組み込まれました。

今年の近畿あーきてくとのテーマは「阪神・淡路大震災」から20年の節目であることから今後起こりうる様々な災害に備えた「地域のそなえ」をテーマに各府県で実施している活動発表でした。

兵庫県、和歌山県、京都府、滋賀県、奈良県、大阪府に加え学生の発表もあり大変有意義な一日となりました。

奈良県からは十津川村役場 建設課 主幹 乾氏がH23に起きた紀伊半島大水害後の復興住宅「心身再生の郷（新しい集落づくり）」について発表がありました。ただ被災地の道路整備や建物整備ではなく「新しい集落をつくり若者から高齢者までが働きたい住みたいと思える安全な新しい集落を創る」ことを目指して計画されたこと、また今後も引き続き「元気な拠点づくりプロジェクト」等地域に根差した整備を進めると熱く語っておられました。

その他の発表も防災への地域を挙げた取り組みが多かったと思います。

学生発表の一つに「木造耐力壁ジャパンカップへの挑戦」をいうのがありました。発表を聞くまでそんな大会があることすら知りませんでした。第17回大会ということなのでかなり以前から行われているようです。

企業や学生がいろいろな形の筋交をつくり耐震性や経済性を競うというもので、発表者である滋賀職業能力開発短期大学のチームが大会3連覇を果たしそこに至る試行錯誤や先輩から継承した思いや技術をこちらにも熱く語ってくれました。

いろいろなところでいろいろな人達がいろいろな方法で災害による被害を減らすべく努力している、そんな熱い思いを感じさせてくれる一日でした。

